



創刊のご挨拶／編集長 カボスひろし (大分県産タレント) 託されたものを次の世代に繋ぐ

ふるさと大分の魅力を多くの人に伝えたい、そんな想いを込めて活動を始めて15年が経ちました。大分県を代表する特産品を名乗り、大分各地のお祭りの司会を務めさせていただき、大分にまつわるオリジナルソングを作って歌ってきました。15年間変わらず、一貫していることは、大分にこだわって発信をしてきたことです。大分にこだわり続ける理由は、大分に生まれ育ち、今もこの場所で生きている理由を探しているからだと思えます。

時代は変化し、日本は少子高齢化で核家族化が進み、歴史の縦軸が分断され始めています。大分弁が通じない子ども達も増えていきます。ご近所付き合いは少なくなり、同じ時代を生きる人同士の関係も希薄になり、人と人を繋ぐ横軸も危うくなっています。そんな今だからこそ、大分の先人達の言葉に耳を傾け、歴史の縦軸を強く結び、今を生きる者同士で共有し、より良い未来に繋がりたいと思い、『大分の語り部』で編集長を務めることにしました。

私は、これから大分県内の語り部達を訪ね歩く長い旅に出ます。10年、20年、30年と私の一生をかけた長い旅になりそうです。旅の様子をオウンドメディア『大分の語り部』でリアルタイムで発信し続けることで、大分県民の皆さんも、私と一緒に、改めてふるさとをより深く知り、知ったことを周りの方々に語っていただくことで、誰もが『大分の語り部』となるような未来を創造していきたいと思えます。

編集長 カボスひろし

これからの大分の語り部

2019年4月にスタートした『大分の語り部』。大分の語り部達のインタビューを中心に定期的に情報発信していきます。WEBサイト(oita.link)がベースとなり、

サイトでは最新情報やインタビュー全文を掲載。フリーペーパーは、隔月偶数月に発行。次号は6月1日発行予定です。さらにTwitter、facebook、Instagramも

WEB/SNS
紙 / 動画



順次開設し、Youtubeも活用して、動画でも大分の語り部の皆さんのパフォーマンスをご紹介します。詳しくは、oita.linkを検索してください。

編集後記：5月から新元号がスタートする、大きな節目の年に『大分の語り部』がスタートすることに運命的なものを感じます。元号が変わっても変わらない、大分の先人達の普遍的な知恵を探求します。(カボスひろし)

大分の語り部 vol.01

発行日：2019年4月1日

制作：Cabooosu

編集長：カボスひろし

WEB：oita.link



大分と世界、そして未来をつなぐオウンドメディア これ一冊であなたも 語り部！

OITA NO KATARIBE

大分の語り部
vol.01
2019.04

はじまり～
はじまり～




創作絵説き吉四六語り
広田美茶子

特集

吉四六語り

編集長はカボスひろし

『大分の語り部』って何？

先人たちが語り継いできた大分県の民話・神話を世界に発信し、未来の子ども達に語り継ぐオウンドメディアです。フリーペーパーやWEB・SNS・動画などと連動して広く深く発信します。

oita.link 検索

▲WEBサイトはこちら

ふるさと大分にこだわり続けて15年のカボスひろし(大分県産タレント)が編集長を務めます。語り部から託された大分の知恵を後に繋げるために、このフリーペーパーやWEB・動画を活用して、世界へ未来へ発信していきます。編集長ご挨拶は4面をご覧ください。



¥0 TAKE FREE ご自由にお取りください

次号は2019年6月1日発行予定

ご自由にお取りください



創作絵説き吉四六語り

ひろた びちゃこ

広田美茶子

01 なんしよんの？ now

吉四六語りを始めて11年。小学校や介護施設を中心に、語り部活動を続けている広田美茶子さん。「あんたは美しくて茶目っ気があるけん、美茶子と名乗ったらいい」と友人からすすめられ、芸名を美茶子にしたそうです。

美茶子さんは、

ただ話すだけではなく、自作のイラストを使って紙芝居のように語ります。大分弁の軽快なトークとカラフルでユーモラスなイラストが織りなす創作絵説き吉四六語りに、聴く人は引き込まれていきます。美茶子さんの語りのもう1つの特徴は、一方的に話すだけではなく、「あんた！この



後、どうなると思う？」と聴く人に、突然話を振ったり、巻き込んだりして、飽きさせないところです。そんな美茶子さんが吉四六語りを始めるようになったきっかけは、吉四六ランドでした。

02 なし始めたん？ origin

庄内町で生まれ育ち、庄内神楽が大好きな美茶子さんは、幼い頃から本を読むことが大好きでした。結婚して子どもができて、読み聞かせ



も楽しくなり、読み聞かせの会に入会。そんなある日、たまたま立ち寄った臼杵市の吉四六ランドで、吉四六ばなしを聞き、私もやってみたい！と思い立ち、吉四六ランドでやっていた『吉四六ばなしを学ぶ会』に入会しました。会では月に1回学んでいましたが、月1回じゃ足りない！と師匠の家に通いつめて、とうとう100本の吉四六ばなしが語れるようになりました。いろんな人の前で話すよ

うになりましたが、子ども達に話した時に、大分弁が通じていないことや話だけだと退屈すること気づき、子どもが分かる言葉で、子どもが楽しめるようにイラストを描いて絵説きで吉四六さんを語るようになりました。



取材を終えて… | 吉四六さんのことは「いかに楽しんで得するか」ということばかり考えている、ズルい人という印象でしたが、今改めて吉四六語りを聞きなおすと、物事は色々な角度から考えられる

こげな話が
あったんじゃ

創作絵説き吉四六語り みかんの巻



- ①「和尚さんのとこに風呂敷を持って行って！」と庄屋さんから頼まれた吉四六さん。
②持って行きよったら重たいけん、気になって風呂敷を開けてみたら立派なみかんが9個も入っちゃった。「こげなでけえの見たことねえ、1個こっそりもらっちゃおう」
③和尚さんに渡すと「見事なきゅうねんぼ（※注1）じゃな！」と喜ぶ和尚さん。
④ここで吉四六さん勘違いした。9個入っているから、きゅうねんぼっち言ったのかな。わしが1個、懐に入れたけん、今は8個じゃ。いかん！わしがとったことがバレる…。
⑤「和尚さんすまなかった、わしが懐に1個入れちゃった。これを足したら、確かにきゅうねんぼじゃ！」それを聞いた和尚さんはキョトンとしたとさ。

※注1：きゅうねんぼ（九年母）とはみかんの種類の1つです。

03 どげえするん？ future

「人を楽しませるのが好きだから、これからも吉四六語りを続けるよ」と美茶子さん。より伝わるように、より楽しんでもらえるように、常に聞き手を意識して語るスタイルはさらに進化していきそうです。吉四六

さんは「とんち者」ですが、とんちとは、機に応じて即座に働く知恵のこと。時代に応じて、即座に伝え方に工夫を凝らす美茶子さんの姿はまさしく「とんち者」でした。

聞き手・文：カボスひろし

➤ という、生きるための知恵を教えてくれているような気がします。生きづらい現代を肩の力を抜いて楽しく柔軟に生きていくヒントが吉四六語りにはたくさん詰まっています。（カボスひろし）